

令和4年度 公益財団法人山梨県スポーツ協会事業報告書

事業報告

事業概要

本協会は、県民のスポーツニーズを的確にとらえ、県民一人ひとりがスポーツに親しめるよう、スポーツの振興を図っていく公益財団法人としての使命を果たすため経営計画やスポーツ推進計画に基づき、加盟団体との連携を一層強化しながら「スポーツ協会の運営」、「スポーツの推進」、「利用環境・効率の向上」を重点に次の事業を行った。

なお、事業の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症のまん延防止に向け作成したガイドラインに基づき、感染防止対策に万全を期し、指定管理施設や教室・イベント等においてクラスターの発生も無く事業を行うことができた。

事業実施状況

I スポーツ協会の運営

1 理事会、評議員会等の運営

(1) 理事会	第1回(通常)	令和4年6月 2日(木)
	第1回(臨時)	令和4年6月17日(金)
	第2回(通常)	令和4年8月 5日(金)
	第3回(通常)	令和5年3月22日(水)
(2) 評議員会	定 時	令和4年6月17日(金)
	臨 時(書面)	令和4年8月19日(金)
(3) 総務委員会	第1回	令和4年5月27日(金)
	第2回	令和4年7月28日(木)
	第3回	令和5年3月17日(金)
(4) 加盟団体関係会議		
市町村体育・スポーツ協会事務局長・事務担当者会議		令和4年4月13日(水)
加盟競技団体・学校体育団体理事長会議		令和4年4月13日(水)

2 事務局の運営

(1) スポーツ庁が、スポーツ団体における適切な組織運営を行う上での原則・規範として策定した「ガバナンスコード」について、本協会においても適用し遵守状況について公表する等、コンプライアンスの強化とガバナンスの確保に取り組んだ。

(2) 本協会が実施する事業推進のため、自主財源の確保に努めた。

ア 賛助会員の加入募集

イ 寄附金(免税寄附金)の募集及び制度の活用促進

(3) 総合的人材育成システムの運用

「人材育成基本方針」に基づき、職員の資質向上のため、研修会の開催や各種講習会及び資格取得研修への参加等、総合的な人材育成を行うとともに、職員倫理やコンプライアンスの徹底、向上を図った。

(4) 働き方改革への取り組み

就業管理システムによる適正な労働時間の把握、業務の効率化による時間外勤務の削減等について取り組んだ。

(5) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえたスポーツ施設管理

職員の感染防止、健康管理に十分配慮するとともに、職員が罹患者又は濃厚接触者となり業務に従事できない者が生じた場合であっても、業務を継続できるよう柔軟かつ機動的な職員配置を行い施設管理を行った。

(公益目的事業)

II スポーツの推進

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるスポーツへの参画機会の減少等を受け、県民誰もがスポーツに親しみ、活力ある地域社会を実現していくために次のとおり事業を進めた。

1 専門委員会の開催

スポーツの推進を図る上で必要な事項について検討するため、専門委員会を開催した。

(1) スポーツ振興委員会	第1回	令和4年 6月28日(火)
	第2回	令和4年11月 9日(水)
	第3回	令和5年 3月 6日(月)
(2) 広報委員会	第1回	令和4年 5月20日(金)
	第2回	令和4年11月30日(水)
	第3回	令和5年 3月10日(金)
(3) スポーツ医・科学委員会	第1回	令和4年 7月14日(木)
	第2回	令和4年11月10日(木)
	第3回	令和5年 3月 9日(木)
(4) 境川自転車競技場運営委員会	第1回	令和4年 5月 9日(月)
	第2回	令和5年 3月 7日(火)
(5) スポーツ少年団常任委員会	第1回	令和4年 5月16日(月)
	第2回	令和4年 6月23日(木)
	第3回	令和4年10月20日(木)
	第4回	令和5年 2月27日(月)

2 子どものスポーツ機会の充実

新型コロナウイルスの影響により、大会やイベントが中止される等子どものスポーツへの参画機会が著しく減少している中であって、スポーツ少年団活動の意義は益々重要となることから、これまで以上に積極的な事業展開した。

(1) スポーツ少年団の育成

ア スポーツ少年団組織の活性化

スポーツ少年団組織の活性化を図るため、理念と意義の浸透、指導者養成と資質の向上、幼児加入に対する取り組みについて、内容、方法を検討した。

イ 指導者協議会評議員会の開催

令和4年5月11日(水) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

(イ) アクティブ チャイルド プログラムの普及と団活動への浸透

子どもたちが楽しみながら、からだを動かすことのできる「アクティブ チャイルド プログラム」の普及・浸透を図るため研修会を開催した。

令和4年7月16日(土) 小瀬スポーツ公園体育館サブアリーナ・研修室
参加者29人

イ 団員交流事業の促進

特定の種目に偏らず、様々なスポーツを体験させ運動感覚を養うとともに、野外活動や文化活動等をとおして創造性や協調性を育むことを目的に、各種大会の開催及び助成を行うとともに、各種中央大会へ団員及び指導者の派遣を行った。

(ア) 県内交流事業

a 第44回山梨県スポーツ少年大会の開催

令和4年7月23日(土)から24日(日)に1泊2日で八ヶ岳少年自然の家において開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

b 第15回山梨県スポーツ少年団フェスティバルの開催

令和4年4月9日(土)に小瀬スポーツ公園武道館において開催した。
参加団8団 参加団員94人

c 第41回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会予選会の開催

軟式野球 令和4年 6月 4日(土)から12日(日)
甲府市緑が丘球技場ほか
バレーボール 令和4年 6月19日(日)から26日(日)
境川スポーツセンター体育館ほか
ミニバスケットボール 令和4年 6月12日(日)から26日(日) 鐘山体育館ほか
バドミントン 令和4年 6月 5日(日) 甲州市勝沼体育館
空手道 令和4年 5月15日(日)
小瀬スポーツ公園武道館アリーナ

d 全国スポーツ少年団競技別交流大会予選会の開催

バレーボール 令和4年11月 6日(月)
市川三郷町生涯学習センター体育館
剣道 令和4年11月13日(日)
小瀬スポーツ公園武道館アリーナ

(イ) 県外交流事業

a 第53回関東ブロックスポーツ少年大会への派遣

令和4年8月5日(金)から7日(日) 東京都 ※中止

b 第60回全国スポーツ少年大会への派遣

令和4年8月4日(木)から7日(日) 鹿児島県
参加指導者1名、団員2名

c 第41回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会への派遣 神奈川県

軟式野球 令和4年 7月17日(日)から18日(月・祝)
バレーボール、ミニバスケットボール、バドミントン
令和4年 7月30日(土)から31日(日)

空手道 令和4年 9月18日(日)から19日(月・祝)

d 全国スポーツ少年団競技別交流大会への派遣

第44回 軟式野球 令和4年8月 4日(木)から 7日(日) 奈良県※派遣なし

第45回 剣道 令和5年3月25日(土)から27日(月) 新潟県

派遣指導者1人、団員7人

第20回 バレーボール 令和5年3月24日(金)から27日(月) 静岡県

(女子)派遣指導者 3人、団員 8人

(男子)派遣指導者10人、団員10人

ウ 市町村スポーツ少年団の組織強化

スポーツ少年団組織の指導体制の強化と組織の資質向上を目指し、その機能を充実させるため、団員交流や単位団の活性化を図った。

(ア) スポーツ少年団市町村事務担当者会議の開催

スポーツ少年団の理念と意義や単位団の活動のあり方等への理解を深めてもらうとともに、各市町村の課題や情報を共有することによる連携強化を図るため、担当者会議を開催した。

令和5年2月15日(水) 小瀬スポーツ公園体育館サブアリーナ

(イ) 県内スポーツ少年団交流事業への助成

県内市町村スポーツ少年団において団員の交流を図る事業に助成した。

(ウ) 県外スポーツ少年団交流事業への助成

近隣の県外団員との交流を促進し、団活動の活発化を図る事業に助成した。

(エ) 母集団育成事業への助成

単位団を支える“母体となる集団”の育成を図る事業については、指導者育成の委託事業で行ったため、助成は行わなかった。

(オ) 体力テスト事業への助成

自己の体力を把握し、健康管理や体力づくりを促進する事業については、県内交流事の中で行ったため、助成は行わなかった。

(カ) 全国規模競技大会参加団員への助成

家庭の経済状況によらず、すべてのスポーツ少年団員が全国大会を目指すことができるための参加にかかる交通費及び宿泊費の助成に対する申請はなかったため、助成は行わなかった。

(キ) 指導者育成事業の委託

指導者の資質向上並びに指導者組織の整備拡充を図るための事業を市町村に委託した。

5市(韮崎市、甲斐市、上野原市、甲州市、中央市)

(2) スポーツ機会の提供

子ども達が身体活動の持つ楽しさや成功体験を経験することにより、将来的なスポーツへの可能性を広げられる事業として「子どもスポーツキャラバン」を年間3回実施した。

甲府市石田児童館(3回)。

3 生涯スポーツ活動の推進

新型コロナウイルスの感染拡大により、大会やイベントが中止される等、県民のスポーツへの参画機会が減少している中、競技団体、市町村体育・スポーツ協会や山梨県スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ関係団体と連携し、県民一人ひとりが気軽にスポーツに親しむ機会の拡充に取り組んだ。

(1) スポーツ大会の開催

ア 山梨県体育祭り

県民一人ひとりがスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフの創造と地域のスポーツ振興を図り、明るく豊かで活力あるふるさとづくりを目的に開催した。

なお、総合開会式及び総合閉会式並びに民謡、レク・フォークダンス及びレスリング競技については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

また、オリエンテーリング競技は降雨、スケート競技(スピード)は積雪のため中止した。

ただし、総合閉会式の代替として優勝旗等授与式を開催した。

(ア) 令和4年度実行委員会総会の開催(第75回夏秋季大会・第76回冬季大会)

令和4年4月22日(金) 小瀬スポーツ公園体育館

(イ) 第75回夏季大会

カヌー競技	令和4年5月28日(土)	精進湖カヌー競技場
ボート競技	令和4年6月18日(土)	河口湖漕艇場
セーリング競技	令和4年6月19日(日)	山中湖村ヨットハーバー沖
少林寺拳法競技	令和4年8月7日(日)	小瀬スポーツ公園武道館
水泳競技	令和4年8月21日(日)	小瀬スポーツ公園水泳場

参加者691人

(ウ) 第75回秋季大会

組合せ抽選会 令和4年7月29日(金) 小瀬スポーツ公園武道館
陸上競技他39競技

中心会期 令和4年9月17日(土)・18日(日)・25日(日)

会場 小瀬スポーツ公園他33会場

参加者6,877人

総合開会式

令和4年9月17日(土) 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ ※中止

総合閉会式

令和4年9月25日(日) 緑が丘スポーツ公園体育館大体育館 ※中止

優勝旗等授与式

令和4年9月25日(日) 小瀬スポーツ公園武道館第一武道場

(エ) 第76回冬季大会

スケート競技(フィギュア)

令和4年11月19日(土) 小瀬スポーツ公園アイスアリーナ

参加者50人

スケート競技(スピード)

令和5年2月11日(土) 北杜市八ヶ岳スケートセンター ※中止

スキー競技

令和5年 3月12日(日) サンメドウズ清里スキー場

参加者182人

アイスホッケー競技

令和5年 3月25日(土)から26日(日) 小瀬スポーツ公園アイスアリーナ

参加者150人

イ 山梨県スポーツ・レクリエーション祭

「第1回全国スポーツ・レクリエーション祭」の開催を記念して、県民が気軽に参加でき、スポーツ・レクリエーションを楽しみながら、交流を深める場となることを目的に開催した。

なお一部の競技については新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

(ア) 令和4年度実行委員会総会の開催

令和4年4月6日(水)

(イ) 第34回山梨県スポーツ・レクリエーション祭

令和4年5月14日(土)、5月15日(日)、21日(土)、22日(日)、29日(日)

マスターズ陸上競技等18種目 小瀬スポーツ公園他

ウ 第59回山梨県一周駅伝競走大会

スポーツ県やまなし宣言記念事業の一環として、県内各地区の代表チームによる県一周駅伝競走大会を開催し、スポーツの普及啓蒙を図った。

令和4年12月3日(土)から4日(日) 山梨県全域

参加18チーム

(2) 参加機会の充実

ア スクールの開催

(ア) スポーツ健康づくり教室

生涯スポーツの必要性及び継続して行うことの大切さを理解してもらえよう、スポーツや運動をする機会を提供し、サークル活動等による自主的な活動への発展を促し、スポーツライフを支援した。なお、開催に当たっては、「スポーツ健康づくり教室等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成し、感染拡大予防対策を講じたうえで開催した。

小瀬スポーツ公園 教室数 99 参加者数 5,242人

富士北麓公園 教室数 10 参加者数 600人

(イ) トレーニング室利用者証の発行・実技指導

a 利用者証の発行

トレーニング室初回利用者を対象に、安全に施設を利用してもらうためトレーニング室の利用説明を行い、利用者証を発行した。

利用者証発行者数 2,252人

受付 随時

発行料 無料(施設利用料別途)

b 体質改善プログラムの提供

メタボリックシンドローム改善のため、体組成測定器を用い、筋・脂肪割合、体組成成分、メタボリック情報など10項目について評価を行い、それに基づいて適切な運動

プログラムを提供した。

実施者数 2, 122人

体組成測定 随時

測定料 測定のみ(結果説明、運動アドバイスを含む)200円/人

c 実技指導

利用者の目的に応じたトレーニングメニューを提供するとともに、機器の効果的な使用方法を指導し、トレーニング効果を高めた。

なお、健全な発育発達を考慮し、中学3年生からの利用とした。

実技指導実施者数 11, 405人

実技指導 随時

指導料 無料(施設使用料別途)

(ウ) 富士北麓公園フリーウエイトトレーニング室利用講習会

フリーウエイトトレーニング室利用者が、利用基準にしたがって施設を安全により効果的に利用してもらうため、講習会を開催し修了証を発行した。

利用者講習会受講者数 86人(39回開催)

開催期日は利用状況により開催(月に3~4回程度)

(エ) スポーツ体験コーナー

新たにスポーツをするきっかけを創出するため、山梨県レクリエーション協会、ミズノグループ及びヴァンフォーレ甲府と連携し、定期的に無料で軽スポーツやニュースポーツなどを体験できる「スポーツ体験コーナー」を3回開催した。

8/6 ヴァンフェス トレーナー体験&軽スポーツ体験コーナー

9/19 3x3フェスティバル 軽スポーツ体験コーナー

10/15 農業まつり「まつりの広場」 モルック体験コーナー

イ スポーツフェスティバルの開催

各年齢層に応じたスポーツを楽しむ機会やふれあいの場を提供し、スポーツの楽しさと爽快感を体験するとともに、スポーツへの興味や関心を高め、スポーツを実践する動機づけとなるような大会・イベントの開催を行ったが、新型コロナウイルスの感染急拡大により、子どもスポーツフェスティバル小学生ドッジボール大会は中止とした。また、シルバースポーツフェスティバル第2回は台風接近のため中止とした。

なお、大会・イベントの開催に当たっては、「スポーツ健康づくり教室等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成し、感染拡大予防対策を講じた上で開催した。

小瀬スポーツ公園 実施イベント日数 13日 参加者数 2, 327人

富士北麓公園 実施イベント日数 9日 参加人数 1, 103人

ウ セミナーの開催

(ア) スポーツ医・科学セミナー

国体強化選手、指導者及びスポーツ愛好者等を対象に、スポーツ医・科学委員会と連携し、健康の保持増進や体力づくり、競技力の向上等を目的としたスポーツ医学やスポーツ科学のセミナーを対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催した。

令和4年11月17日(木) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

講演Ⅰ「アスレティックトレーナーの役割」

講演Ⅱ「アメリカのトレーナー事情」

講演Ⅲ「トライアスロンチームに対するアスレティックトレーナーの係わり方」

参加者 国体実施競技監督・コーチ、部活動指導者、選手等 34人

(イ) 健康・体力づくりセミナー

スポーツを愛好している一般の人たちを対象に、身近なスポーツの技術・技能の紹介や健康・体力づくりの基礎的な知識を提供するセミナーを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。

(3) プロスポーツ・イベントの誘致・開催

ア プロスポーツ・イベントの積極的な誘致とトップアスリートを招聘したスポーツイベントの開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施し、「山梨プロレス祭り」を5回、2月に浅田真央選手のアイスショーを開催した。

イ ミズノビクトリークリニックの開催

指定管理事業において協力体制のあるミズノ所属及び契約のトップアスリートやプロ指導者と直接ふれあえる「ミズノビクトリークリニック」を開催し、スポーツを「する」人をはじめ、「みる」「ささえる」人にも魅力的なスポーツイベントとして県民の夢と希望を広げ、地域活性化の機会を創出した。

令和4年10月1日(土) 講師 ウルフ・アロン(柔道)

会場 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ 参加者64名

令和4年12月17日(土) 講師 小林幸司(ソフトテニス)

会場 富士北麓公園体育館メインアリーナ 参加者72名

(4) 地域スポーツの活動への支援

ア 高齢者向け体力測定

活力ある超高齢化社会を目指し、高齢者関係機関・団体に出向き、身体運動の基本となる歩行能力評価と運動指導をセットにした運動プログラムを計画したが参加希望がなく実施しなかった。

イ 指導者派遣

地域・職場・サークル等が行うスポーツ活動を支援するため、要望に応じ指導者を派遣し、健康・体力づくりの指導を行った。

指導者派遣 23回 参加者数 644人

ウ 軽スポーツ用具の貸出

地域・職場・サークル等が行うスポーツ活動に対して、軽スポーツ用具の貸し出しを行った。

小瀬スポーツ公園 貸出回数 189回 延利用者数 6,638人

富士北麓公園 貸出回数 8回 延利用者数 354人

(5) 障がい者スポーツの推進

専門的知識やノウハウなどの情報を有する山梨県障がい者スポーツ協会のほか、各専門関係団体と連携し、障がい者と健常者が共に参加できるイベントとして、3on3ストリートバスケットボール大会及びカーリング大会を開催した。

3on3ストリートバスケットボール大会 4チーム 16人

4 競技スポーツの推進

(1) 競技力の向上

本県選手が国民体育大会や各種大会等において優秀な成績を収めることができるよう競技力の向上を図るとともに、県民のスポーツへの関心を高め、本県スポーツの発展を期するため、各種会議を開催するとともに各種事業を行った。

ア 競技力向上対策本部の運営

(ア) 本部会議(年4回)

第1回 令和4年 6月30日(木) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

第2回 令和4年 9月 1日(木) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

第3回 令和4年10月27日(木) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

第4回 令和5年 3月 2日(木) 小瀬スポーツ公園体育館研修室

(イ) 理事長、事務局長、主任強化コーチ会議(年3回)

国体出場競技団体の理事長、事務局長、主任強化コーチ等に対し、競技力向上に関する説明会や研修会を実施した。

第1回 令和4年 5月17日(火) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

第2回 令和4年11月15日(火) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

第3回 令和5年 3月 7日(火) 小瀬スポーツ公園体育館サブアリーナ

(ウ) 競技団体個別会議

対策本部委員と競技団体競技力担当者が面談を行い、今後の課題、方針等の意見交換を行った。

令和5年2月6日(月)、8日(水)、13日(月)、15日(水)

小瀬スポーツ公園体育館研修室、会議室

イ 競技団体等への支援

(ア) 競技団体選手強化事業

国民体育大会に向けて、候補選手(指導者を含む)を対象とした強化事業に対し助成した。また、強化事業においては、スポーツトレーナーの帯同に要する経費を補助した。

(イ) 成年チーム指定強化事業

a 重点チーム強化

国民体育大会において優秀な成績を収めるため、重点強化チーム9チームを指定し、強化事業に対し補助した。

b 指定チーム強化

成年選手の競技力の維持向上を目指して、大学・企業・クラブチーム13チームを指定し、強化事業に対し補助した。

(ウ) 海外派遣奨励金の交付

日本代表として世界選手権等の大会に海外派遣される個人・団体に対し奨励金を交付した。

個人7人

(エ) 競技団体等主催大会等助成事業

関東大会・全国大会及び国際大会等の開催や本県選手の出場、活躍は本県スポーツの振興に大きく寄与するため、本県開催の関東規模以上の大会に対し助成した。

全国大会規模2大会、関東大会規模11大会

(オ) 練習場確保事業

県立射撃場の整備凍結に伴う競技団体の練習場確保事業に対し補助した。

ウ 2巡目国体を見据えた競技力強化

昭和61年のかいじ国体以来2巡目となる本県開催での国体を令和14年に見据え、選手の発掘・育成事業に対し補助した。

(ア) ターゲットエイジ発掘事業

各競技団体が競技の普及や選手発掘を目的に小学生から中学生を対象とした個別発掘事業に対し補助した。

(イ) ターゲットエイジ育成事業

国体正式競技である41競技において発掘したターゲットエイジを対象に技術向上のための練習会に対し補助した。また、国体に近年導入された新種目及び女子選手の強化が必要な競技を定め、重点強化する事業に対し補助した。

(ウ) 指導者養成事業

国民体育大会の監督資格となる指導者資格保有者を確保するため、資格取得に係る経費の一部を補助した。

エ 国民体育大会選手等の選定及び派遣

予選会を実施し、選手の選考を経て、本県選手団を派遣した。

(ア) 第77回国民体育大会関東ブロック大会

令和4年6月11日(土)から8月28日(日) 東京都

本部役員11人、監督・選手686人

(イ) 第77回国民体育大会

会期前実施競技 (水泳・体操・ビーチバレー・弓道)

令和4年 9月10日(土)から19日(月) 栃木県

本大会 令和4年10月 1日(土)から11日(火) 栃木県

<開会式> 令和4年10月 1日(土)

<閉会式> 令和4年10月11日(火)

本部役員28人、監督・選手332人

(ウ) 特別国民体育大会

冬季大会関東ブロック大会 (アイスホッケー)

令和4年12月 9日(金)から18日(日) 東京都

監督・選手21人

冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

令和5年 1月28日(土)から2月 5日(日) 青森県

本部役員8人、監督・選手43人

冬季大会スキー競技会

令和5年 2月17日(金)から20日(月) 岩手県

本部役員7人、監督・選手27人

- (エ) 日本スポーツマスターズ2022への派遣 岩手県
令和4年9月3日(土)から4日(日)(水泳)
令和4年9月7日(水)から9日(金)(ゴルフ)
令和4年9月23日(金)から26日(月)(中心会期)

オ 医・科学サポート

(ア) 医学的サポート

国体に参加する選手(含:関東ブロック大会)から提出された健康調査票を基に、メディカルチェックを実施し、選手の健康管理を行った。

(イ) 科学的サポート

栄養関係、心理関係、コンディショニング関係の3分野について、実施希望があった国体参加競技団体を対象に測定、調査、分析し、指導・助言を行った。

栄養的分野 令和4年11月26日(土) 山梨学院大学

参加者 ホッケー成年男子チーム監督、選手 33人

(ウ) 国民体育大会へのスポーツドクター、アスレティックトレーナーの帯同

国体参加時にスポーツドクター並びにアスレティックトレーナーを帯同させ、選手の緊急医療時の対応やドーピング関係薬物の対応を行った。

第77回国民体育大会

会期前実施競技 スポーツドクター2人

本大会 スポーツドクター4人、アスレティックトレーナー2人

特別国民体育大会

冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会 スポーツドクター2人

冬季大会スキー競技会 スポーツドクター2人

カ 国民スポーツ大会の開催

- (ア) 令和14年の第86回国民スポーツ大会(第78回大会から国民体育大会から国民スポーツ大会に名称変更)の本県招致に向けて準備を進めた。

5 スポーツ環境の整備

(1) 人材の養成

ア 子どものための人材養成

(ア) スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会

地域における単位団活動の中心的指導者を養成する講習会、スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会を開催した。

第1回 令和4年 8月21日(日) 小瀬武道館第1会議室 参加者46人

第2回 令和4年10月30日(日) 小瀬武道館アリーナ 参加者61人

第3回 令和5年 2月19日(日) 小瀬体育館サブアリーナ 参加者65人

(イ) スタートコーチ(スポーツ少年団)インストラクター研修会

スポーツ少年団の指導者の養成を行うスタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会の講師を務めるスタートコーチインストラクター等のスキルアップを目的に研修会を開催した。

令和5年 2月19日(日) 小瀬体育館サブアリーナ 参加者8人

(ウ) スポーツ少年団指導者研修会

指導者等の資質向上と指導者相互の連帯を図るため、研修会を開催した。

令和4年12月10日(土) 市川三郷町生涯学習センター 参加者37人

(エ) 関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会

関東ブロック各都県のスポーツ少年団指導者の相互の連携と資質・指導力の向上を図るための研究協議会に参加した。

令和4年11月 5日(土) から 6日(日) 栃木県 参加者4人

(オ) スポーツ少年団リーダーの養成

リーダー会の育成や指導者協議会との連携により、将来の指導者を養成するとともに、少年団の円滑な活動の推進を図った。

a ジュニア・リーダースクールの開催

単位団において、団員の模範となって活動するジュニアリーダーを養成した。

令和4年11月12日(土)から13日(日) 小瀬スポーツ公園武道館ほか
参加団員18人

b シニア・リーダー研修会

中学生以上で、シニア・リーダー資格取得に意欲のある団員を集め、資質向上のための研修会を開催した。

令和5年 2月11日(土) 小瀬スポーツ公園体育館 参加団員13人

c 関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

関東ブロック各都県のスポーツ少年団リーダーの相互の連携と資質の向上を図るための研究大会へ派遣した。

令和4年10月15日(土)から16日(日) 千葉県
参加指導者1人、団員3人

d リーダーの派遣

日本スポーツ少年団シニア・リーダースクール

令和4年 8月 9日(火)から12日(金) オンライン開催 参加団員2人
全国スポーツ少年団リーダー連絡会

令和4年 6月11日(土)から12日(日) オンライン開催
参加指導者1人、団員1人

e 山梨県スポーツ少年団リーダー会への助成

組織の強化充実並びに運営経費に助成する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため山梨県スポーツ少年団リーダー会の活動が縮小及びリモートによるオンライン開催になったことから助成しなかった。

イ 生涯スポーツのための人材養成

(ア) スポーツリーダー養成講習会

地域におけるスポーツグループやサークル等のリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたることのできる指導者を養成する講習会を開催した。

令和4年 5月14日(土)から15日(日) 小瀬武道館 参加者20人

(イ) 公認コーチ1養成講習会

地域において、子ども達や初心者を対象に、競技別の専門的な知識を活かし、個々の

指導対象にあわせた指導が可能となる指導者を養成する講習会を開催した。

実施競技: バレーボール 参加者18人、自転車競技 参加者14人

(ウ) 公認コーチ2養成講習会

各地域において、年齢、競技別レベルに応じた指導ができ、指導計画等においても中心的な役割を担うことができる指導者を育成する講習会を開催を計画したが、競技団体から実施希望がなかったため開催しなかった。

(エ) スポーツドクターの確保

医・科学委員会との連携と医師の協力のもと、スポーツドクターの確保のため、日本スポーツ協会開催の養成講習会へ7人の推薦を行った。

(オ) アスレティックトレーナーの確保

医・科学委員会及び競技団体と連携を図り、アスレティックトレーナーの確保のため、日本スポーツ協会開催の養成講習会へ1人の推薦を行った。

(カ) スポーツ指導者研修会の開催

公認スポーツ指導者の資質の向上と活動促進、指導者の連帯感を深めるため、研修会を開催した。

第1回 令和4年 6月11日(土) 富士川町はくばく文化ホール 参加者174人

第2回 令和4年 8月27日(土) 勝山ふれあいセンター 参加者 52人

第3回 令和5年 1月21日(土) オンライン開催 参加者 59人

(キ) 山梨県スポーツ指導者協議会への助成

組織の強化充実並びに運営経費に助成した。

(2) スポーツ拠点の充実

ア 地域スポーツの充実

(ア) スポーツ振興ブロック会議

スポーツの振興に関し、各地域の市町村のスポーツ関係者と地域の課題等について意見交換を行い、推進強化を図った。

中北地区 令和4年 7月 5日(火) 北巨摩合同庁舎 参加者84人

峡南地区 令和4年 7月 6日(水) 身延町総合文化会館 参加者46人

富士・東部地区 令和4年 7月 8日(金) ぴゅあ富士 参加者53人

峡東地区 令和4年 7月13日(水) 甲州市民文化会館 参加者58人

情報提供 :「令和5年度からの休日部活動の地域移行について」

研究協議テーマ:「共に歩むスポーツ環境の実現」

(イ) 山梨県スポーツ推進委員協議会との連携

各地域の県民がスポーツの生活習慣化できるような魅力ある事業を展開し、スポーツ拠点を拡充できるよう、山梨県スポーツ推進委員協議会との連携を図った。

(ウ) 大学・企業との連携

県内大学・民間団体との連携を強化し、共催事業等を展開することにより、民間の持つノウハウ又はネットワーク等を活用した事業展開を行った。

a 山梨学院大学との連携

「スポーツで山梨の未来を創造する」ために各種事業の展開を推し進めていくこととし、包括連携協定を締結した。

令和4年 5月17日(火) 山梨学院大学クリスタルタワー7階 広報スタジオ

b アミューズとの連携

アミューズ所属のアスリートによるスポーツイベントを企画したが、日程が合わず開催には至らなかった。令和5年度には、同社が新規事業を立ち上げる計画があり、これに本協会が参画するよう打ち合わせを重ねるなど、一層の協力関係の構築を図った。

(エ) 山梨ことぶき勸学院との連携

高齢者の健康体力づくりのために、「山梨ことぶき勸学院」の生徒を対象に、有資格者による運動指導を行った。

(オ) スポーツツーリズムの活用

「やまなしスポーツエンジン」との連携事業として、スポーツエンジンが富士北麓公園に誘致した東京都の「子供を笑顔にするプロジェクト」を実施。「富士北麓 CHALLENGE DAY」として東京都内の中学校2校が参加した。

第1回目：令和5年 3月 9日(木) 中学3年生 261名

第2回目：令和5年 3月10日(金) 中学3年生 152名

イ 総合型地域スポーツクラブの育成・登録・認証

(ア) 広域スポーツセンターの運営

山梨県が設置した広域スポーツセンターを運営し、総合型地域スポーツクラブの創設や運営及びスポーツ活動について効率的に支援するとともに、クラブ運営の助言及び指導や登録・認証制度及び中学校運動部活動の地域移行について情報共有を行った。

総合型地域スポーツクラブ情報交換会 第1回 令和4年 6月24日(金)

第2回 令和4年 9月20日(火)

第3回 令和5年 2月24日(金)

(イ) 総合型地域スポーツクラブの育成と登録・認証

山梨県と連携し、クラブアドバイザーとともに県内各市町村を訪問し、総合型地域スポーツクラブの状況把握を行うとともに、運営の助言及び指導を行った。

また、登録・認証制度の運用開始に伴い、総合型地域スポーツクラブがより公益性の高い「社会的な仕組み」として、永続的に充実した活動を行えるよう、各市町村に対し、総合型地域スポーツクラブへの理解を求めるとともに継続的な支援並びに総合型地域スポーツクラブとの連携をお願いした。

(ウ) 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用

令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用を行った。

令和4年度は、31クラブ中13クラブが申請し、申請した13クラブが予備登録クラブとして認定された。

総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度説明会 令和4年 4月15日(金)

総合型地域スポーツクラブ登録審査会 令和4年 8月23日(火)

総合型地域スポーツクラブ登録部会 令和4年 9月22日(木)

(エ) 公認アシスタントマネジャー養成講習会の開催

クラブ運営のための諸活動をサポートするアシスタントマネジャーの資格取得ができる公認アシスタントマネジャー養成講習会を開催した。

令和4年8月6日(土)、7日(日)、11日(木・祝) 夢ワーク山梨ほか

(オ) やまなし総合型クラブ交流イベントの開催

クラブ相互の交流と認知度アップを図るとともに、広く県民に参加を呼びかけ、スポーツ実施率の向上を促す契機とするイベントを開催した。

令和4年11月23日(水・祝) 小瀬スポーツ公園武道館 参加者44人

(カ) 総合型地域スポーツクラブ山梨への助成

総合型クラブ交流事業の実施及び組織の強化充実の運営経費を助成した。

ウ 管理施設の環境の充実

本協会が管理している施設については、新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインを策定し、安全・安心に利用していただけるよう営業形態や環境整備に取り組んだ。

さらに、快適な利用のために、日々の施設の環境整備、備品の点検、AEDの設置や職員の救急救命法の研修などを実施した。

(ア) 管理受託施設・利用人数

a 小瀬スポーツ公園	514,535人(前年度413,203人)
b 富士北麓公園	115,542人(前年度 58,583人)
c 緑が丘スポーツ公園	115,150人(前年度108,356人)
d 八代射撃場	919人(前年度 729人)

(イ) 直営施設

a 境川自転車競技場	9,239人(前年度12,121人)
------------	--------------------

(3) スポーツの啓発

ア スポーツ情報発信

(ア) インターネットの活用

- ・インターネットを活用し、管理施設の情報、スポーツ教室やイベントの紹介を行った。
- ・SNSの活用としてInstagramを用い、本協会の各種事業の告知や報告等を県民へ発信した。また、拡散力の強いTwitterも活用し、施設利用者の更なる獲得及び利用促進を図った。また、公園駐車場の空き状況なども発信し、利用者の便宜を図った。

(イ) 広報誌の活用

- ・情報交換と提供の場としてスポーツ協会広報誌「スポーツやまなし」とスポーツ少年団広報誌「わかば」を発行した。
- ・各管理施設における情報や健康増進情報等を掲載した広報誌「Lively 小瀬」を毎月、「Lively 北麓」を隔月で発刊した。

(ウ) スポーツ絵画・写真コンクールの開催

スポーツの絵画・写真を通して、スポーツへの関心を高めるとともに、県民のスポーツに対する意識の向上を図った。

イ 各種表彰

(ア) スポーツ協会表彰

体育・スポーツに尽力された体育功労者に対し、その活動への感謝と功績を讃えるため表彰を行った。

また、全国大会や世界大会に出場し優秀な成績を収めた県内選手・指導者に対し、その功績と今後の活躍を期待して表彰を行った。

体育功労者78人、特別優秀選手4人、優秀選手・団体53人10チーム、

奨励賞5人

(イ) スポーツ少年団表彰

永年に亘り、団活動を活発に行い他の模範となるような単位団並びに団活動に尽力し、その功績が顕著な指導者に対して表彰を行った。

優良単位団1団、優秀指導者1人

(4) スポーツサポーター活動の推進

一般県民の方が本協会事業に「本協会の一員として同じ目標・理念を共有し、活動に参加していただくことによりスポーツを支える」スポーツサポーターとしてボランティア参加していただける方策を打ち立て、これを長期にわたり安定した運営が行えるよう体制づくりについて検討した。

6 国際スポーツ交流の推進

(1) スポーツ少年団のスポーツ交流

ア 日独スポーツ少年団同時交流

日独の友好と親善を深め、国際的能力を高めるとともに、スポーツ少年団の発展に寄与するため、両国のスポーツ少年団の優れた青少年及び指導者の相互交流を行った。

派遣事業 令和4年 8月 1日(月) から 8月 5日(金) オンライン開催

参加団員1人

(2) 競技スポーツ交流

ア 日中スポーツ交流

日中両国政府により実施された2007「日中文化・スポーツ交流年」を契機として、両国の代表団員が互いの国を訪問し、スポーツを中心とした様々な交流を実施する計画であったが、競技団体から参加希望がなかったため実施しなかった。

イ 日韓スポーツ交流

2002年ワールドカップ・サッカー大会の日韓共同開催決定を契機として、両国の代表団員が互いの国を訪問し、スポーツを中心とした様々な交流を実施する計画であったが、競技団体から参加希望がなかったため実施しなかった。

ウ 日ロススポーツ交流

2016年に発表された「ロシアにおける日本年」を契機として、両国の代表団員が互いの国を訪問し、スポーツを中心とした様々な交流を実施する計画であったが、競技団体から参加希望がなかったため実施しなかった。

(3) 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした取り組み

富士北麓公園で実施された7人制ラグビーフランス代表チーム及び陸上競技日本代表事前合宿で利用された球技場並びに陸上競技場やウッドストレート、フリーウエイトトレーニング室等の施設の利用促進を図った。

7 安心してスポーツに取り組めるスポーツ環境の推進

(1) クリーンでフェアなスポーツの推進

ア フェアプレイの推進

スポーツを真に楽しく行う上で欠かせないフェアプレイを推進するため、日本スポーツ協会

の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン運動を推進し、「フェアプレイニュース」の掲示や、主催イベントの要項等へのキャンペーンロゴの掲載等、スポーツ活動のあらゆる場面で協力及び実践の呼びかけを行った。

イ スポーツ・インテグリティ(誠実性・高潔性)の確保

スポーツ団体における「コンプライアンス(法令順守)」の強化と「ガバナンス(組織統治)」の構築のため、ガバナンスコードの順守に努めるとともに、日本スポーツ協会の加盟団体規程に基づき、各種規程等の再整備に取り組むとともに、加盟団体にもガバナンスコードの順守の促進に取り組んだ。

ウ ハラスメントの撲滅

選手同士また選手と指導者がお互いを信頼してスポーツを行えるように、いじめや暴力・暴言、セクハラ等、これまでの指導方法の中に起こりうるハラスメントについて注意喚起を行うとともに研修会を開催した。

また、スポーツにおける暴力行為等に関する相談及び問い合わせに対応するために設置した相談窓口を運営した。

相談件数4件

エ アンチ・ドーピングの啓発

(ア) アンチ・ドーピング講習会

薬物乱用、誤用の認識を高め、健全なスポーツ活動を推進するため、講習会を開催した。

第1回 令和4年 6月30日(木) オンライン形式 参加者10競技31人

第2回 令和4年 7月 9日(土) 小瀬体育館研修室 参加者 3競技 6人

(イ) 競技別アンチ・ドーピング講習会の開催

選手が多く集まる練習会や合宿に出向いての講習会は実施希望がなかったため開催しなかった。

オ スポーツ仲裁自動応諾条項採択の周知・促進

スポーツ関係団体が、スポーツに関するルールの透明性を高め、健全なスポーツの発展に寄与していく組織づくりの機会になるよう、日本スポーツ仲裁機構の仲裁自動応諾の採択を加盟団体に対して働きかけた。

(2) 補償制度の推進

ア スポーツ安全保険の加入促進

関係スポーツ団体に対し、団体活動中に発生する怪我や損害等に備え、安心してスポーツが行えるようスポーツ安全保険への加入を促進した。

イ スポーツ傷害見舞金の周知

スポーツ大会等に参加した選手等で負傷又は死亡した者に対し見舞金の給付を行う旨を周知した。

ウ 主催者賠償責任保険への継続加入

主催事業で損害賠償事故が起きた場合に補償できる体制を整えるため、主催者賠償責任保険へ継続加入した。

(収益事業等)

Ⅲ 利用環境・効率の向上

1 各種サービス事業

(1) レストラン・売店等の運営

公園来園者に対する飲食等の便宜供与のため、体育館レストラン・売店における飲食の提供、物品の販売を行うとともに、スケート靴等の貸し出しに係る斡旋業務を行いスポーツの普及支援の担い手として事業を展開した。

ア レストランの委託による運営

「やまなしグリーン・ゾーン認証施設」として認証を受け、感染拡大予防ガイドラインに則して営業を行った。

・営業時間 午前11時から午後6時まで

※通常は火曜休業(祝日の場合は営業、翌日休業)であるが、新型コロナウイルス感染拡大予防の対応として、水曜日から日曜日の週5日間の営業とした。

・販売品目 ラーメン、カレーライス、ジュースなど常時約30品目

・営業日数 260日/年(前年度実績 235日/年)

イ 売店の運営

イベントや大規模大会等の開催時に臨時売店を開設し、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを策定し、ガイドラインに基づいた飲食物の販売を行う他、各施設の受付においてスポーツ用具(テニスラケット他)の貸出、テニスボール等の販売、協力企業の商品のセール等施設利用者のニーズに応えた売店運営を行った。

・販売品目

臨時売店:焼きそば、飲料等を約10品目

受付販売:バスケットボール等の貸出、バドミントンシャトル等の販売

ウ 自動販売機の設置

管理施設内に自動販売機を設置し、清涼飲料水・乳飲料・アイスクリーム及び菓子類等の販売を行った。

・自動販売機の設置台数

小瀬スポーツ公園 45台(プール開放期間中は追加)

緑が丘スポーツ公園 10台

富士北麓公園 7台

境川自転車競技場 2台

八代射撃場 1台

エ スケート靴の斡旋

小瀬アイスアリーナにおいて、利用者にスケート靴の貸し出し業務を行った。

・貸靴種目 フィギュア他3種 約800足

・貸出実績 小瀬アイスアリーナ 個人9,482足/年(前年度実績10,790足/年)
団体4,932足/年(前年度実績 3,374足/年)

オ ジョギングハウスの活用

ウォーキングやジョギングで小瀬スポーツ公園を訪れた方々が、気軽にトレーニングも行えるよう、ジョギングハウス内に容易に扱え、安全性の高いトレーニング器具を設置し、無料で

開放することで小瀬スポーツ公園の利用促進を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開放を中止とした。

カ 施設利用者への還元事業の実施

施設の利用促進と、日頃からの施設利用者に対する還元事業として、各種イベントを企画し利用者が楽しめる施設を目指した。

- ・クリスマス、バレンタイン企画（利用者へプレゼント配布）

キ 福利厚生事業の支援

職員が安心して働ける職場づくりの推進を図るため、職員互助会の諸事業に対し支援を行った。

2 利用効率の向上

本協会が管理する各施設の利用効率の向上のため、スポーツ振興以外の民間企業の会議など公益目的以外の利用についても、サービスの向上と利用促進に努め施設の有効活用を図った。